

「授業のヒント」補足資料

この資料は、メールマガジン203号（2025年12月1日発行）にあります「授業のヒント」を補足するものです。

203号の「授業のヒント」は、たくさんあります「〇〇教育」について考えることを中心課題にしています。その「〇〇教育」をどのように解釈すればよいのかを考えるために四象限図について記述しました。その具体的な内容をこの補足資料で示したいと思います。

一枚目は、2025年11月25日に慶応大学で開催された経済教育ネットワーク東京(No.147)部会で報告したものが元になっています。

二枚目は「10. 新しい軸の（案）」に書きましたものを表しています。

多くの皆様と「経済教育」について考えるための資料になれば幸いです。

（金子幹夫）

教科書記述そのものを分析対象にしている

- ・書かれている内容
- ・書かれている順番

基盤となる知識が中心



道徳教育

経済教育

社会との接点が遠い学習

法教育
主権者教育
経済教育

社会との接点が近い学習

起業家教育
キャリア教育
金融教育

国際理解教育

NIE、環境教育

防災教育

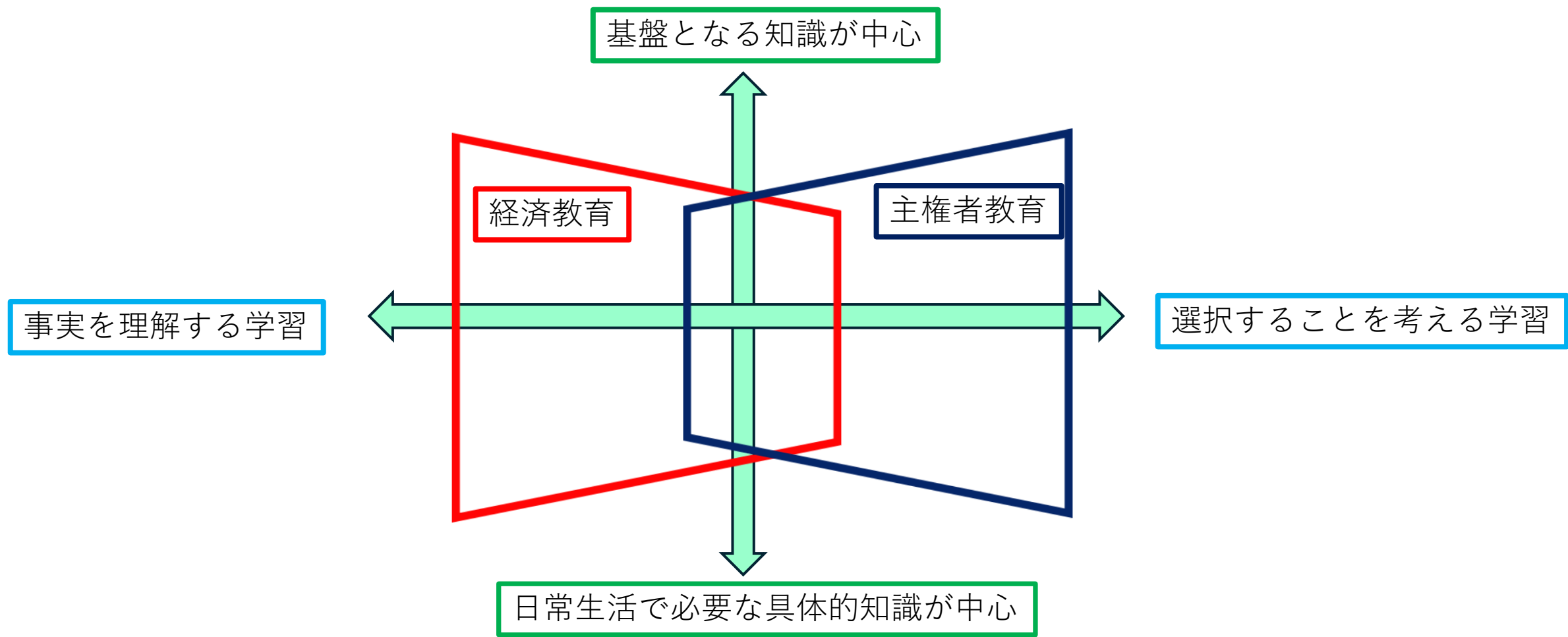
消費者教育

日常生活に必要な具体的知識が中心

- ・年間の授業時数は決まっている。
- ・教えるべき事柄はきちんと教える。
- ・うまく教えられない項目について、どのような工夫ができるのかを考える。その時にヒントをくれるのが〇〇教育

※ この見方が適切であるということを示すものではありません。

ひとつの解釈を可視化することで、議論が深まることを期待して示したものです。



- ・ 経済教育と主権者教育を仮にこのように置いてみたらどのような議論が続くでしょうか？
「もしも価格が△△だったら人や企業は□□のような行動をするだろう」といったことを経済教育で学びます。
「その経済の仕組みが、うまく機能していなかったら、どのような政策を選ぶことができるのでしょうか？」という
ことを主権者教育で学びます ……といったことを可視化してみました。

※ この見方が適切であるということを示すものではありません。
ひとつの解釈を可視化することで、議論が深まることを期待して示したものです。